

ネイティブウサギホスホリラーゼ**b**

Cat. No. NATE-0563

Lot. No. (See product label)

はじめに

説明 ホスホリラーゼ**b**は非活性型であり、安静時の筋肉に存在します。ホスホリラーゼ**b**キナーゼの活性は、 Mg^{2+} :ATP比が超えると著しく増加します。筋収縮中のATPの分解は、ホスホリラーゼ**b**のin vivo交換を引き起こすと考えられています。ホスホリラーゼ**b**は、イノシンーリン酸によって活性化されます。

用途 ホスホリラーゼ**b**は、筋肉における不活性ホスホリラーゼ**b**から活性ホスホリラーゼへの交換メカニズムを研究するために使用されます。ホスホリラーゼ**b**は、温度、AMP、フッ化物、洗剤など、ホスホリラーゼ**b**からホスホリラーゼ**a**への交換に影響を与える要因を研究するために使用されます。また、ホスホリラーゼ**b**欠損異の研究にも使用されます。Creative Enzymesの酵素は、メチルアミン脱水素酵素サブユニットの分子量を研究する際に、セファロースC1-6Bカラムのキャリブレーションに使用されました。これは、チャージ還元バッファー内でスーパーチャージ試験を用いて生成されたホスホリラーゼBイオンのイオンモビリティ-質量分析研究にも使用されています。また、ホスホリラーゼキナーゼと[32P]ATPを使用してp32標識ホスホリラーゼAの調製にも使用されています。

別名 ホスホリラーゼ**b**; EC 2.4.1.1; 9012-69-5; 筋肉ホスホリラーゼ**a**および**b**; アミロホスホリラーゼ; ポリホスホリラーゼ; アミロペクチンホスホリラーゼ; グルカンホスホリラーゼ; α -グルカンホスホリラーゼ; 1,4- α -グルカンホスホリラーゼ; グルコサンホスホリラーゼ; グラニュロースホスホリラーゼ; マルトデキストリンホスホリラーゼ; 筋肉ホスホリラーゼ; ミオホスホリラーゼ; ジャガイモホスホリラーゼ; デンブンホスホリラーゼ; 1,4- α -D-グルカン:リン酸 α -D-グルコシルトランスフェラーゼ; ホスホリラーゼ (あいまい)

製品情報

種	ウサギ
由来	ウサギの筋肉
形態	タイプI、乳糖、5'-AMP、および $Mg(OAc)_2$ を含む凍結乾燥粉末（100 mgのタンパク質あたり10 μ mole）；タイプII、凍結乾燥粉末、淡黄色。
EC番号	EC 2.4.1.1
CAS登録番号	9012-69-5
分子量	mol wt 97.2 kDa by calculation
純度	2× 結晶化
活性	タイプI、> 20ユニット/mgタンパク質；タイプII、> 7ユニット/mg。
混入物	~0.01 μ mol/mg タンパク質 5'-AMP（この低レベルは、ホスホリラーゼおよびホスホリラーゼキナーゼアッセイに干渉しません。）
単位定義	1ユニットは、30°CでpH 6.8の条件下で、グリコーゲンとオルトリン酸から5'-AMPの存在下で1分あたり1.0 μ moleの α -D-グルコース1-リン酸を生成します。この反応は、ホスホグルコムターゼ、NADP、およびグルコース6-リン酸脱水素酵素を含む系で測定されます。（1 μ mol単位は約45コリ単位に相当します。）

保管・発送情報

保存方法 -20°C

